

水と資源循環を推進

チームPSI
足 式
発

異分野の識者結集 理事長に海老江邦雄氏

「チーム水・日本」登録チームである「ポリシリカ鉄による水・資源循環システム推進チーム」が始動、8日に都内で行われた発足式には、来賓ら約90人が出席した。今後、国内の水道関係者のみならず、農漁業、土壌関係者、市民等を交えて水と資源の循環社会を構築、食糧生産力の向上も視野に入れた活動を実施。ノウハウを集め、将来的には海外でも活動を実施する予定。理事長には、北見工業大学の海老江邦雄名誉教授が就任した。チーム下部には、「調査企画」「研究開発」「事業開発」と三つのワーキンググループを設置。チームの略名は「水・資源循環チーム・PSI(英略名「TWR with PSI)」と決まった。事務局はNPO法人PSI協会内に置かれる。

海老江理事長は、開会にあたり「水・資源の循環、一翼も担えれば」と挨拶で水環境の改善といったさまざまな事業を展開していく。水の安全保障に関連し、

社会的安心・安全性向上の一翼も担えれば」と挨拶で水環境の改善といったさまざまな事業を展開していく。水の安全保障に関連し、

また、副理事長に就任した磯村欽三NPO法人PSI



幅広く産学の関係者が集う

I協会会長(磯村豊水機工会長)は、「今後は活動主体を本チームに移す。自然環境の蘇生のためにも力を尽くしたい」と話した。

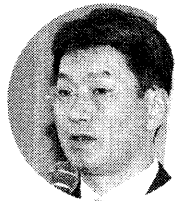
記念講演は3題。初めに広島大学大学院の岡田光正教授が「水・資源循環システム構築におけるポリシリカ鉄の可能性について」と題して講演。主に水産資源の生産性向上の観点から、



磯村副理事長



海老江理事長



伊藤准教授



太田教授

チームPSIが発足

「ポリシリカ鉄による水資源循環システム推進チーム」の発足式典が催された。同チームは「チーム水・日本」の登録チームとして、鉄系凝集剤



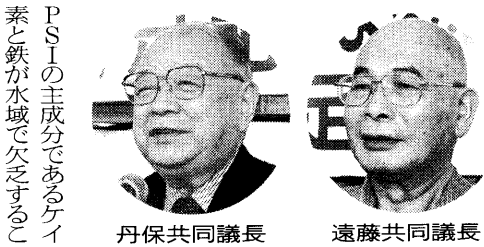
発足式で遠藤共同議長が激励

「ポリシリカ鉄(P.S.I)」を水処理のみならず、農業利用、自然再生等に用いることを視野に入れて活動していく。式には、水の安全保障戦略機構執行審議会の共同議長である遠藤武彦自由民主党の安全保障に関する特命委員会委員長、丹保憲仁元国際水協会会長をはじめとする多数の来賓が参集し、盛大に挙行された。(4面に関連記事)

「ポリシリカ鉄による水資源循環システム推進チーム」の発足式典が催された。同チームは「チーム水・日本」の登録チームとして、鉄系凝集剤

「ポリシリカ鉄による水資源循環システム推進チーム」の発足式典が催された。同チームは「チーム水・日本」の登録チームとして、鉄系凝集剤

とにより魚類ではなくクラゲ等の増殖に繋がる可能性を問題提起した。



丹保共同議長

遠藤共同議長

東北大学大学院農学研究所の伊藤豊彰教授は「浄水発生土の水稻生育に対する効果」について紹介。昨今、土壌にはケイ素が欠乏気味であり、これを補うことで水稻の葉が立って受光態勢が良くなり、根の活性向上により養分と水分の吸収が向上し、また固くなることで耐倒伏性や病気・害虫への抵抗性が高まること

を紹介した。

また、海老江理事長が「ポリシリカ鉄の概要と浄水場における導入事例」と題し講演。その中で、浄水施設が改築更新期に入っている今こそP.S.I.の特性を活かした正しい使用方法で高効率浄水を実施をと呼びかけ、具体的には凝集段階におけるpHと攪拌(強度・時間)を適正に設定することで、P.S.I.の性能をより高く引き出せるとした。式典には水の安全保障戦

略機構執行審議会の共同議長である遠藤武彦氏、丹保憲仁氏ら多数の来賓が出席。

遠藤氏は「さまざまなチームが活動を行っており喜ばしい。P.S.I.チームには地球の未来にも可能性を与えるつもりで頑張っ欲しい」と、丹保氏は「私は重合シリカの研究に29歳の時からかかわったが、これがこれまでの技術になったことは、日本の成した誇れる仕事だ」とそれぞれエールを贈った。

来賓挨拶



竹村代表理事

竹村公太郎日本水フォーラム代表理事

チーム水・日本の登録チームに関して、自分たちでやれることは自分たちでやることはもちろんのことだが、しかしチームが壁に突き当たった際には、われわれとしても行政に働きかけを行っていききたい。

吉村和就水の安全保障戦略機構技術普及委員長

P.S.I.は面白いビジネスになると思うが、技術者の視点ばかりではなく、啓蒙



吉村委員長

販売というエンジンも必要とも感じる。一般に分かりやすく説明することが重要だ。



山村事務局長

山村尊房日本環境協会全国地球温暖化防止活動推進センター事務局長

P.S.I.は、厚生労働省水道課長を務めていた当時から知っている。現在、環境



松本会長

分野に携わっており、P.S.I.の今後の動向に注目したい。

松本聰日本土壌協会会長 P.S.I.発生土は土壌との親和性が高い。この使用に関し、今後も技術を進展させてほしい。

小笠原紘一全国簡易水道協議会技術アドバイザー

昨今、物質循環が話題となっているが、その中で浄水汚泥について議論が交わされることはなかった。背景には、水道事業者のリサイクルへの一種のあきらめや産廃事業者としての認識



小笠原氏

不足があるように思う。P.S.I.はこれを打破する一つのツールとなれば。



川口議員

川口順子参議院議員 気候温暖化が国の安全保障に関わると思われるが、水問題も同様。P.S.I.が世界にも売れるように頑張っ